

1. 根拠とすべき検討材料

(1) 市民の意識

【視点】○活用していくべき「強み」は何か。

○克服していくべき「課題」は何か。不満が大きい市の施策は何か。

○市民が市のイメージをどう考えているか。

【材料】○「市民意識調査」が中心。「市民広聴会結果」「高校生アンケート結果(未)」

(2) 首長の方針

【視点】○市長がどのような考え方をもちて市政運営を行っているか。

【材料】○「市長インタビュー」

(3) 外部環境の動向

【視点】○将来的に市に影響を与える「時代の潮流」の中で、緊急性が高く、将来都市像を検討していくうえで、特に意識すべきものは何か。

○潜在的な交流人口・定住人口である都市部の住民が、館山市のことをどう認識しているか。

【材料】○「館山市を取り巻く時代の潮流」「都市部住民向けWEBアンケート調査」

(4) データ分析結果

【視点】○客観的なデータからどのようなことがいえるか。

【材料】○「社会指標分析」「人口動向」「産業動向」

(5) 審議委員の意見

【視点】○有識者である審議委員の方々がどう考えているか。

【材料】○「基本構想のイメージ案について」

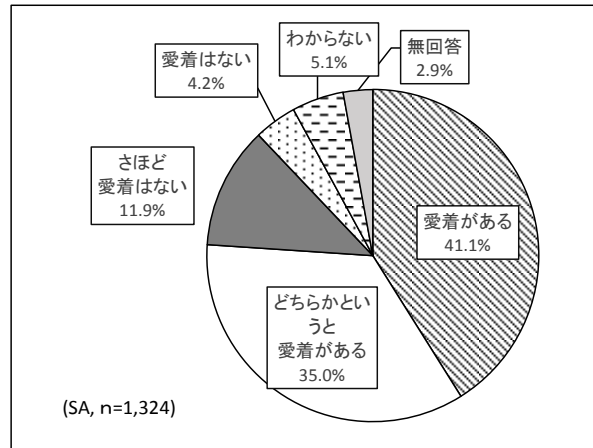
2. 5つの「検討材料」の検討結果の概要

(1) 市民の意識

① 市民意識調査

■ 館山市への愛着

⇒ 市民の 3/4 以上が
「館山市に愛着がある」と回答。



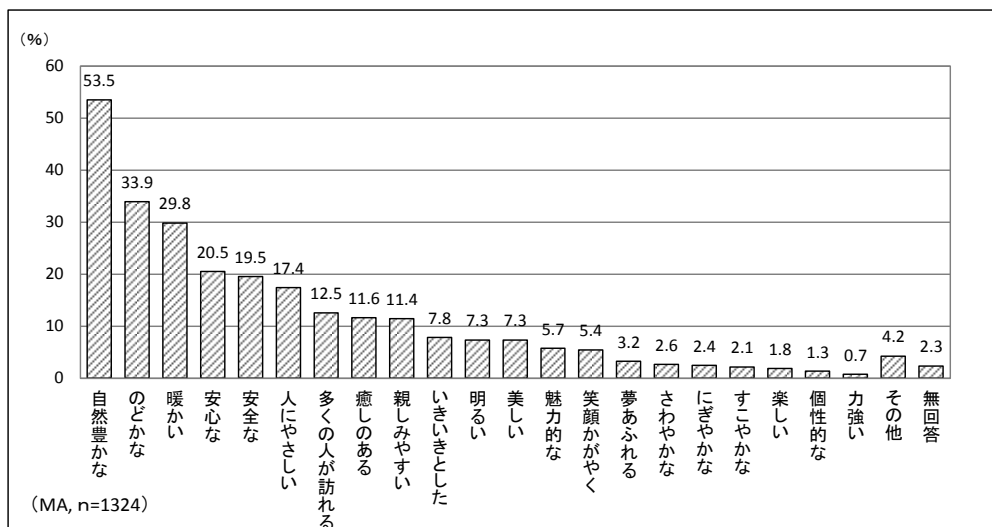
■ 郷土の誇り・宝（場所・風景）

⇒ 「海」「城山」との回答が多い。

	場所・風景	記入件数
1	海	200
2	城山(公園、城山からの景色、城山の花)	192
3	夕日(市内各所からの夕日の景色)	145
4	富士山(海岸を含めた富士山の景色)	132
5	沖ノ島	68

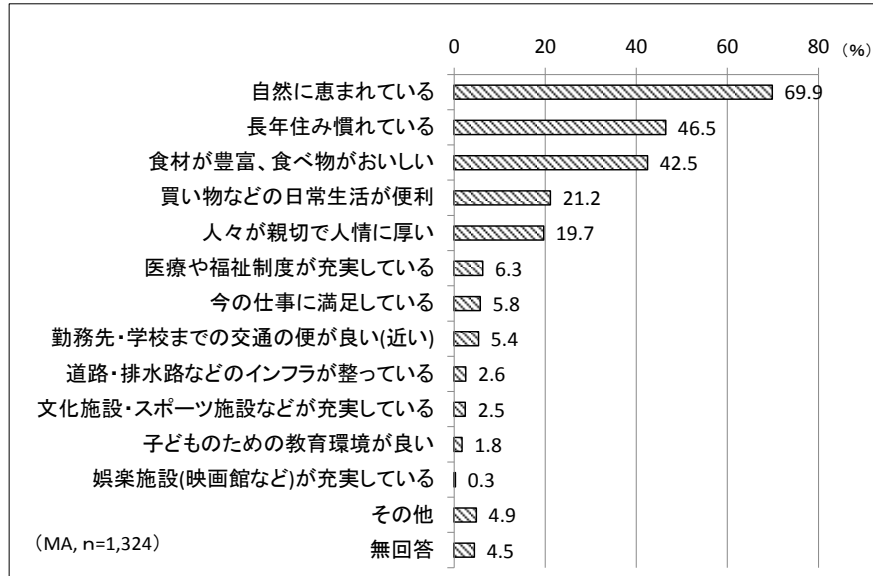
■ 館山市の将来をイメージする言葉

⇒ 「自然豊かな」が最も多く、「のどかな」「暖かい」が続く。



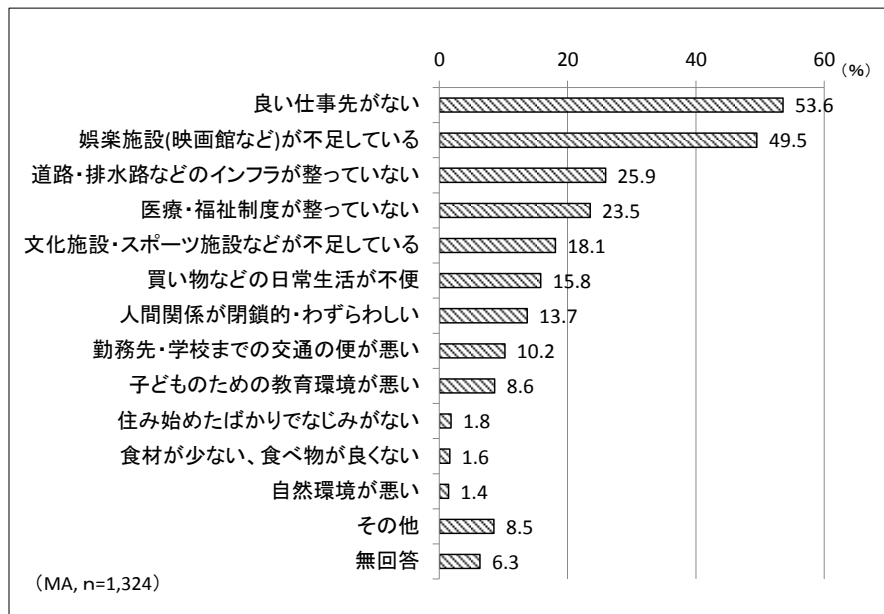
■住みやすい点

⇒「自然に恵まれている」が突出して多い。



■住みにくい点

⇒「良い仕事がない」と「娯楽施設が不足している」との回答が多い。



■項目別 「不満度&重要度（＝総合指標）」 「不満度」 「重要度」

分野	項目	不満度&重要度		順位	不満度		重要度	
		値	評価		値	評価	値	評価
産業・経済	観光振興	-0.15			0.01		-0.16	
	農林業振興	0.31	★	9	0.33	★	-0.02	
	水産業振興	0.26		11	0.22	★	0.04	
	商業振興	0.68	★★	2	0.54	★★	0.14	
	工業振興	0.49	★	5	0.54	★★	-0.05	
	雇用	1.34	★★★	1	0.84	★★★	0.50	★★
福祉・保健	子育て支援	0.23		12	0.04		0.19	
	健康づくり	-0.20			-0.40		0.20	★
	医療	0.55	★★	4	0.02		0.53	★★
	高齢者福祉	0.28		10	0.05		0.23	★
	障がい者福祉	0.06		16	0.02		0.04	
生活安全	防災	0.09		15	-0.21		0.30	★
	消防	-0.50			-0.52		0.02	
	救急体制	-0.08			-0.39		0.31	★
	防犯	-0.02			-0.19		0.17	
	消費生活	-0.32			-0.05		-0.27	
	交通安全	-0.02			-0.15		0.14	
環境共生	緑地・緑化	-0.18			-0.13		-0.05	
	河川浄化	0.37	★	8	0.17		0.20	★
	海岸保全	-0.07			-0.13		0.05	
	ごみ減量	-0.04			-0.10		0.06	
	ごみやし尿の収集	-0.14			-0.14		0.00	
	再エネ対策	-0.21			0.06		-0.27	
基盤整備	高速道路・バス網	-0.47			-0.74		0.26	★
	生活交通路線	0.65	★★	3	0.48	★★	0.17	
	道路・排水路等	0.43	★	6	0.25	★	0.18	
	景観形成	-0.19			-0.07		-0.11	
	多様な交通手段	-0.66			0.05		-0.71	
	通勤等の交通	0.41	★	7	0.24	★	0.17	
教育・文化	港湾利活用	-0.24			0.01		-0.25	
	学校教育	0.03		17	-0.12		0.15	
	文化振興	-0.50			-0.16		-0.34	
	文化施設整備	-0.36			-0.07		-0.29	
	生涯学習	-0.63			-0.16		-0.47	
	スポーツ振興	-0.31			-0.02		-0.30	
行政運営 市民参加	市民協働	-0.08			0.08		-0.16	
	コミュニティ	-0.59			-0.20		-0.39	
	市のPR	-0.10			-0.02		-0.08	
	情報発信	-0.26			-0.02		-0.24	
	民意の反映	0.10		14	0.12		-0.01	
	情報提供	-0.29			-0.26		-0.02	
	行財政改革	0.13		13	0.17		-0.04	

指数が高い 項目に印	★★★	・1.0以上		・0.6以上	・0.6以上
	★★	・0.5~1.0		・0.4~0.6	・0.4~0.6
	★	・0.3~0.5		・0.2~0.4	・0.2~0.4

②市民広聴会結果

⇒「観光」に関する意見が極めて多い。「安全」に関する意見がこれに続いている。

分野	意見集約	分野	意見集約	
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ観光や合宿受入への対応(施設整備) ・観光客を市外に流出させない魅力づくり ・イベントPRの強化 ・海、海岸の景観づくり ・館山駅、那古船形駅開業100周年を生かす ・砲術学校跡の保存(資料含む) ・今ある施設の活用(渚の駅・城山公園など) ・海水浴場での集客強化(BBQニーズなど) ・散策ルートの設定(青木繁→布良崎神社) ・若者向けの観光施策の充実 ・飲食店・物販店の増加(農産物物販、お土産など) ・観光の核となる施設を設定(観光複合施設など) ・一泊してもらえる観光地に ・案内機能の強化(観光客からの質問対応・案内板など) ・ジェットスキー対策 ・フィルムコミッションの強化 ・ダッペエの活用 ・観光地の駐車場対策 ・観光イベントの経済効果の測定 	安全	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯の設置・防犯灯の維持費補助 ・防災訓練の実施 ・防災無線の改善(難聴) ・道路の草刈り ・防災マップの改善(備蓄倉庫を表示・わかりづらい) ・空き家対策 ・備蓄の充実 ・津波対策(避難場所としての高層ビル建設) ・歩道整備 ・交通安全施設整備 ・観光客向けの避難標識設置 ・館野小学校周辺のがけ崩れ懸念 ・避難ルート上の冠水箇所・土砂崩れ懸念 ・道路拡幅 ・排水対策・下水道整備 ・消防団員の減少 	
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の活性化 ・雇用の場の創出による若い世代の流出防止 ・空き家の活用 ・6次産業の推進(公設卸売市場整備) ・企業誘致・大学誘致 ・出会いの場の充実 ・産業振興条例の制定 ・後継者対策(農業) 	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・平砂浦の松林の維持管理 ・海岸のごみ対策 ・景観条例の制定 ・不法投棄対策(ごみ有料化を受けて) ・川の氾濫対策(八幡4区) ・駅周辺の景観改善 ・残土対策(環境への影響) 	
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の日常生活のための移動手段の確保 ・利用者減による公共交通運行本数減少への対応 ・バス路線の維持・バス代の値下げ ・市民の交通マナーの向上 ・JRバスの小型化(省エネ) ・コミュニティバスの導入 ・特急本数の増加(定時性確保) ・電車の運行本数増加 	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館有料化による地域活動縮小懸念 ・公民館利用日の充実(休日) ・図書館の充実 ・青年館の老朽化対策 ・職員対応の向上 ・図書館・体育施設の充実 ・だん暖たてやまを毎月発行に ・ツイッターの実施 	
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して子育てできる環境づくり(公園、病院、買い物などの利便性) ・休日保育の実施 ・給食の食材産地の記載 ・フッ素の無料化 ・医療費助成対象の拡大(中3まで) ・学童保育の増設 ・学校給食の充実 ・予防接種に対する助成拡大 ・子供会の維持 ・待機児童削減 ・特別養護老人ホームの待機解消 			

(2) 首長の方針

■ 市長インタビューより抜粋

○ 「将来像」について

- キャッチフレーズは「輝く人・美しい自然 元気なまち」。
- 館山市の一番の自慢は「人」だと考えている。ホスピタリティがある。
- 観光客は人に関心がある。だからこそ、住んでいる人が輝いていることが大事。輝いている人がいると、周りの人も感化されて輝きだす。人が輝いていて、「住んでいいな」と思えるまちにしたい。
- 「観光立市」に向け、道路を整備したい。一年中ほとんどすべてのスポーツができるので、「スポーツ観光」も考えられる。
- 美しい海を前面に出していきたい。館山の海岸線は、半分が内房で女性的な海、半分が外房で男性的な海。硬軟取り揃えており魅力的である。
- 館山は、財政力では東京にかなわないが、幸福度では負けないまちにすることができると思う。
- 宝島社による「住みたい田舎ランキング」は2年連続8位。県内では最上位なので、もっとアピールしたい。

○ 「個別の取組・動向」について

- 施策においては、少子化対策、雇用創出、移住定住、企業立地をしっかりとやりたい。
- 現状、農業の立て直しが十分できていない。付加価値が高い加工品製造といった方向が求められる。
- 半導体メーカーのUMC J、旭化成パワーデバイスと撤退が相次いだ。承継企業が操業再開に向けて準備しているが、今後の動向が懸念される。

(3) 外部環境の動向

①館山市を取り巻く時代の潮流（「求められる対応策」を分野ごとに整理）

【個々の変化をもたらす影響と、それに対して求められる対応策】

切り口	潮流	影響	求められる対応策	主分野
人の動態の構造的変化	①少子化と人口減少	○総人口の減少⇒購買力の低下	○出生率の上昇（←子育て環境の充実） ○転入の促進、転出の阻止	福祉 全て
		○生産年齢人口の減少⇒供給力の低下 ⇒担税力の低下	○雇用機会の創出	産業
	②人口構成の高齢化	○医療・福祉・介護ニーズの高まり	○医療環境の充実 ○福祉環境の充実 ○介護環境の充実	福祉 福祉 福祉
		○非労働力高齢者の増加	○高齢者向け就業機会の創出 ○高齢者の活動の場・機会の創出	産業 福祉
人の意識の変化	③安全・安心志向	○防災意識の高まり ○防犯意識の高まり	○危機管理体制の構築 ○地域との連携による防災・防犯体制の確立	安全 安全
	④価値観の多様化	○住民ニーズの多様化・高度化	○ニーズに対応できる自治体職員的能力向上 ○分野横断的な対応体制の整備	行政 行政
		○地域コミュニティ意識の希薄化	○地域コミュニティ活動の活性化支援	協働
⑤市民参加・協働意識の高まり	○まちづくり・コミュニティ活動に関心を持つ住民の増加	○活動の受け皿づくり（活動意欲の顕在化） ○活動に対する支援の充実	協働 協働	
社会・経済動向の変化	⑥環境問題の深刻化（地球環境問題、自然環境保全）	○環境保全意識の高揚 ○省エネ等の具体的な行動の進捗	○更なる意識高揚の啓蒙 ○具体的な取組みへの支援の拡充	環境 環境
	⑦グローバル化	○外国人居住者・来訪者の増加	○外国人が生活しやすい環境の整備 ○外国人との交流機会の拡充	基盤 教育
	⑧情報化	○行政サービスへの迅速化・高度化ニーズの高まり	○住民にわかりやすい情報提供体制の整備 ○多様な行政サービスの提供	行政 行政
		○情報化の理解度における市民間・企業間の格差拡大	○住民への情報化教育の推進 ○企業への情報化支援策の推進	行政 行政
⑨地域経済の停滞（都市部との比較で）	○企業の経営環境の悪化 ○個人の雇用・所得減少不安の高まり	○特に中小企業者向けの支援の充実	産業	
方自治体性の	⑩地方分権化	○自治体による経営責任の増大 ○それぞれの行財政運営の巧拙による自治体間の格差の拡大 ⇒それを見た住民・企業の移動の増加	○行政の経営能力、政策立案能力の向上 ○持続可能な財政基盤の構築	行政 行政

⇒「①少子化と人口減少」はすべての分野に影響等を及ぼす、特に大きな課題

②都市部住民向けWEBアンケート調査

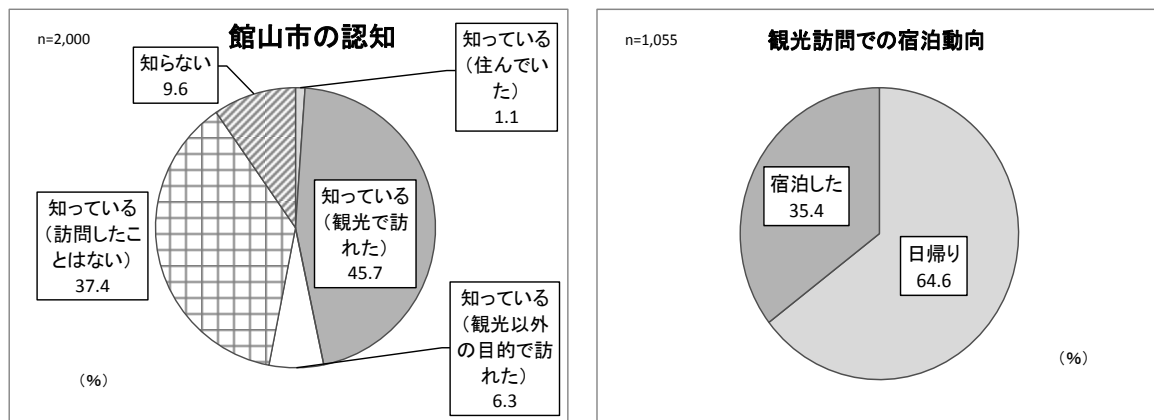
■館山市の認知度

⇒認知度は93.4%で極めて高い。45.7%は、観光で来訪経験あり。

～首都圏人口3,500万人のうち半数近くが「館山市に観光で行ったことがある」ということ。

■観光訪問での宿泊動向

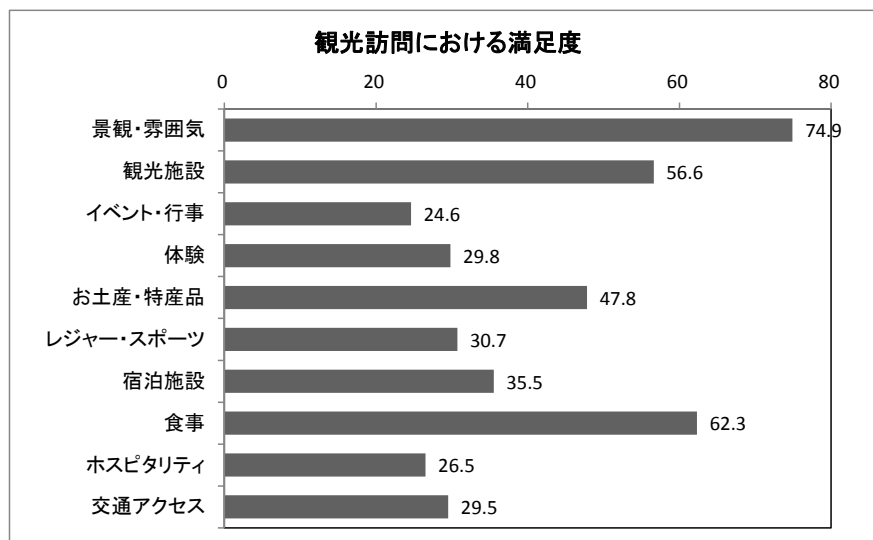
⇒64.6%が日帰りでの来訪。宿泊者の比率は少ない。



■観光訪問での満足度

⇒「景観・雰囲気」「食事」「観光施設」「お土産・特産品」の満足度は高い。

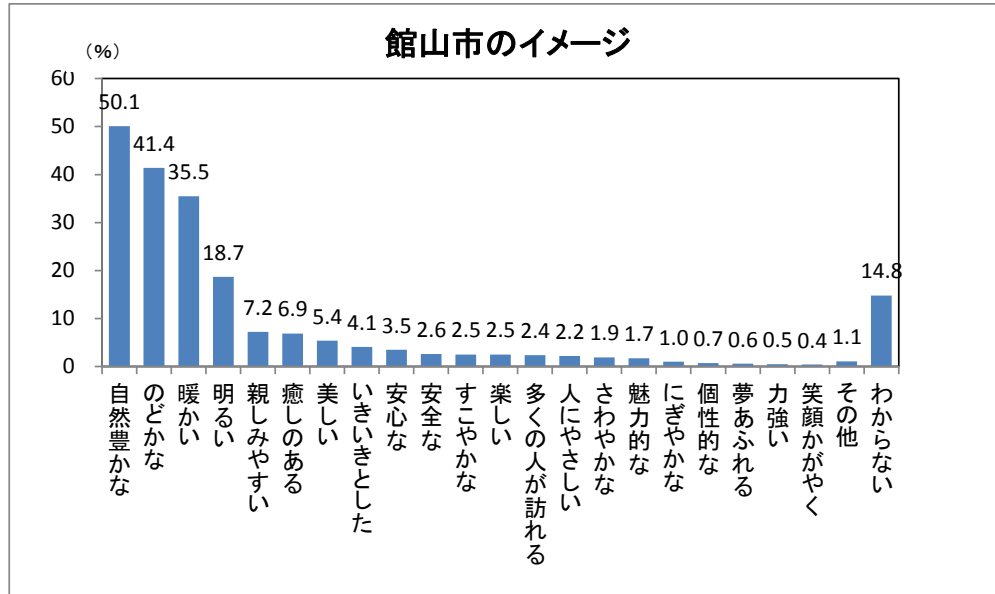
一方で、「イベント・行事」「ホスピタリティ」「交通アクセス」「体験」の満足度は低い。



■館山市のイメージ

⇒「自然豊かな」「のどかな」「暖かい」の順が多い。

この順は、市民意識調査と同じで、都市部の住民も市民と同じイメージを持っていることがわかる。



(4) データ分析結果

① 社会指標分析

■ 各指標の偏差値順整理

順位	No.	指 標	偏差値	評価	対象外
1	生活4	人口1万人あたり病院・診療所数	70.2	〇〇〇	
2	人口①4	合計特殊出生率	69.4	〇〇〇	
3	産業3	第3次産業就業人口比率	68.8	—	☆
4	産業8	人口1人あたり大型店店舗面積	67.4	〇〇〇	
5	産業7	人口1人あたり小売年間販売額	66.3	〇〇〇	
6	人口①6	女性若年層有配偶率	65.8	〇〇〇	
7	人口①5	男性若年層有配偶率	65.6	〇〇〇	
8	労働7	昼夜間人口比率	65.4	〇〇〇	
9	人口②2	年少人口増減率	65.3	〇〇〇	
10	生活8	住宅地地価	64.4	〇〇	
11	労働8	自市内従業比率	64.3	〇〇	
12	労働5	完全失業率	63.1	〇〇	
13	財政3	実質公債費比率	61.1	〇〇	
14	労働6	若年層完全失業率	60.8	〇〇	
15	生活3	1万人当たり刑法犯認知件数	58.1	〇	
16	人口①1	人口増加率	55.7	〇	
17	人口②1	年少人口比率	55.5	〇	
18	財政9	人口千人あたり職員数	55.5	〇	
19	財政8	人口1人あたり地方債残高	54.8	△	
20	財政5	実質収支比率	54.7	△	
21	財政4	将来負担比率	54.3	△	
22	生活6	人口1万人あたり介護老人施設定員数	53.8	△	
23	労働2	労働力人口増加率	52.8	△	
24	人口①2	自然増加率	51.8	△	
25	人口②6	老年人口増減率	51.2	△	
26	生活5	人口1万人あたり医師数	50.7	△	
27	生活1	1万世帯あたり火災出火件数	50.1	△	
28	労働3	30-40代女性労働力率	49.7	△	
29	人口②7	高齢化指数	48.8	△	
30	財政2	財政力指数	48.4	△	
31	人口②4	生産年齢人口増減率	47.8	△	
32	財政7	人口1人あたり地方税収額	47.4	△	
33	生活7	公共下水道普及率	45.8	△	
34	産業1	第1次産業就業人口比率	45.6	—	☆
35	労働9	納税者1人あたり所得	45.4	△	

順位	No.	指 標	偏差値	評価	対象外
36	労働4	高齢者労働力率	44.6	×	
37	財政1	経常収支比率	44.6	×	
38	人口①3	社会増加率	44.2	×	
39	人口②8	平均年齢	43.5	×	
40	産業2	第2次産業就業人口比率	42.8	—	☆
41	人口②5	老年人口比率	42.7	×	
42	労働1	労働力率	42.6	×	
43	人口①9	外国人比率	42.6	—	☆
44	産業5	従業員1人あたり製造品出荷額等	42.2	×	
45	産業6	従業員1人あたり粗付加価値額	41.1	×	
46	人口①7	世帯増加率	40.8	—	☆
47	人口②3	生産年齢人口比率	39.2	××	
48	生活2	1万人当たり交通事故発生件数	38.1	××	
49	人口①8	1世帯あたり人員	35.0	—	☆

■結果の要約（相対的にみた館山市の特徴）

○館山市の主な強み

分野	強み
人口関連	○合計特殊出生率が高い ○男女とも、若年層（25～39歳が対象）有配偶率が高い ○年少人口は減少しているが、減少幅は相対的にみると小さい
産業関連	○第3次産業就業人口比率が高い ○人口あたりの小売年間販売額、大型店店舗面積が大きい ⇒相対的にみて商業施設が充実している
労働関連	○昼夜間人口比率が高い（数値は100超で、15市中1位） ○自市内従業比率が高い ⇒昼間人口を集めており、拠点性が高い
生活関連	○人口あたりの病院・診療所数が多い（15市中1位） ○住宅地の地価が高い ○人口あたりの刑法犯認知件数が少ない
財政関連	○実質公債費比率が低い ○人口あたりの職員数が少ない ⇒効率的な行政運営が行われている

○館山市の弱み

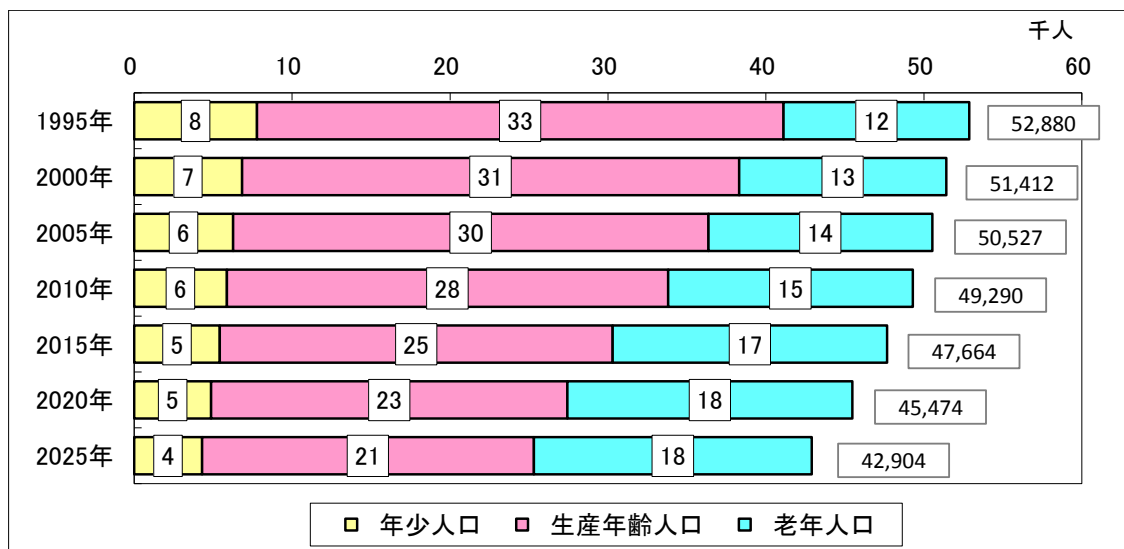
分野	弱み
人口関連	○人口の社会動態の減少幅が大きい ○生産年齢人口比率が低く、老年人口比率が高い ○平均年齢は50.0歳でやや高い
産業関連	○第2次産業就業人口比率が低い ○従業員あたりの製造品出荷額等、粗付加価値額が小さい ～製造業事業者の規模が相対的に小さい
労働関連	○労働力率（労働の意思と能力を有する人／生産年齢人口）が低い 特に高齢者の労働力率が低い
生活関連	○人口あたりの交通事故発生件数が多い
財政関連	○経常収支比率が高い　～財政の弾力性が低い

②人口動向

■人口推計結果

⇒人口減少と高齢化の基調は、今後も強まっていく。

～ある程度織り込んでまちづくりを進めていく必要あり



③産業動向

■産業動向調査

【ポイント】

- ・就従比が高く、拠点性が高い。
- ・「電子部品・デバイス類製造業」の2つの大規模事業所が閉鎖。今後の継承事業所の動向が注目される。
- ・商業では、大規模事業所の立地が多いことを背景として、事業所当たりの従業員数、年間販売額が相対的に大きい。

(5) 審議委員の意見

■各委員の「将来像」と「キーワード」

(敬称略)

委員名	将来像	キーワード
石井 敏宏	・福祉観光都市 ～ <u>住みやすいまち</u> は 行きたいまち～	福祉観光都市 住みやすい
望月 昇	・美しい <u>海・山</u> 、そして壮大な歴史の基に育つ <u>災害に強い館山</u>	<u>海・山</u> 災害に強い
森 正一	・ <u>住んで良かった</u> と思えるまち ・子育て世代がもう一人子どもを産みたいと思えるまち	住んでよかった もう1人産みたい
半澤 美緒子	・共に築こう豊かな自然 歴史文化の輝くふるさと ・輝く未来へ 次代を担う人々が誇れるふるさと	共に築く 自然 未来 誇れる ふるさと
石井 誠	・誰もが安全、安心に暮らせる、住みやすいまち ・東京に近い田舎の良さをアピール	安全・安心 東京に近い田舎
杉井 繁樹	・愛する子どもたちに <u>素敵な海</u> を贈ろう	素敵な海
高橋 實	・ <u>安全・安心なまち「館山」</u>	安全・安心
小金 晴男	・いつでも、誰でも、笑顔・感動のあるまち ～観光資源の発掘と活用取組み 市民、観光関連団体、行政が <u>一体となった</u> 観光振興を図る	笑顔 感動 一体となった
原 徹	・市民としての誇りを持つことができる館山市を構築すること。 ・そのために各個人が市民としての自負を持ちまちづくりに参加行動できる環境を整えること。 ・すばらしい館山市を次代へ継承していくこと	市民としての誇り 次代へ継承
須田 敏男	・水と緑、歴史と文化を活かした観光都市 たてやま ・ <u>安全、安心、快適、住みよいまち</u> たてやま	観光都市 安全・安心 住みよいまち
吉田 南子	・人の <u>あたたかさ</u> ・暮らして良かったと思えるまち ・人と人(地域)の <u>つながり</u> = 互助	あたたかさ 暮らしてよかった つながり
鈴木 正弘	・人の <u>つながり</u> 癒しある明るく元気な館山(まち)	つながり 癒し 元気
古橋 博子	・「豊かな自然」 「子どもの笑顔」 ・「未来創造」 「ふるさと館山」	自然 笑顔 未来創造 ふるさと
田中 真由	・可能性を感じるまち ・循環型の社会 ・インナーモチベーションの向上(誇り・幸福度・満足度など) ・資産(特に人)をいかしたまちづくり	可能性を感じる 循環型社会 誇り・幸福 人を活かす
溝口 かおり	・自然環境や地の利を活かした産業が、 <u>雇用を創出し</u> 、さまざまな世代の市民が健康的・文化的に生活できるまち ・美しい自然や市民のおもてなしで、訪れた人が <u>また来たい</u> と思う魅力あるまち	雇用創出 健康的・文化的 また来たい

■委員ごとの「キーワード」の整理

(敬称略)

委員名	住みよさ	安全安心	自然	海	ふるさと	田舎	誇り	未来	継承	暖かさ	癒し	つながり	共に・一体	笑顔	観光都市	元気	幸福	感動	可能性	循環型社会	子ども	人を活かす	環境保全	雇用創出
石井 敏宏	◎														◎									
望月 昇		◎	◎	◎																				
森 正一	◎																				◎			
半澤 美緒子			◎		◎		◎	◎					◎											
石井 誠		◎				◎																		
杉井 繁樹				◎																				
高橋 實		◎																						
小金 晴男													◎	◎				◎						
原 徹							◎		◎															
須田 敏男	◎	◎													◎									
吉田 南子	◎									◎		◎												
鈴木 正弘											◎	◎				◎								
古橋 博子			◎		◎			◎						◎										
田中 真由							◎										◎		◎	◎		◎		
溝口 かおり																							◎	◎
件数	4	4	3	2	2	1	3	2	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1

⇒「住みよさ」、「安全・安心」、「自然（海）」、「ふるさと・田舎」、「誇り」等が複数の委員からあげられている。

3. 「将来都市像」の根拠とすべき「5つの検討材料」の整理

- ・別紙（A4横）

4. 検討するうえで重視する方針

①「検討材料に沿ったもの」であること

- ・最も重視すべきこと
- ・伝えたい「想い」をいくつかのキーワードに込める

②「前向き」であること

- ・守るべきものを守っていくことも当然必要だが、将来像をコンパクトに提示するには、前向きな姿勢を表現すべき
- ・「10年後のあり方」として、「希望が感じられるもの」「攻めの姿勢が感じられるもの」とする

③「館山らしさ」がうかがわれること

- ・どこの自治体の将来像でも考えられるフレーズではなく、「『館山』の都市像」であることが「なるほどな」とわかるものにする

④「インパクトがあり、覚えやすい」こと

- ・市内外の人が「館山の目指す姿は『〇〇〇』だ」、とすぐに思い出せるような、印象に残るフレーズにする